発行 一般社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507 ホームページ:www.jsqc.org/

#### CONTENTS

- 1-トピックス パリ協定発効と環境マネジメント
- 2-私の提言 原理原則について
- 2-ルポルタージュ 第391回事業所見学会ルポ
- 3-第46年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い/教員公募/12月の入会者紹介
- 4-事務局からのお知らせ/行事案内

# パリ協定発効と環境マネジメント

# 東京情報大学 名誉教授 岡本 眞一

### 1. はじめに

2015年11月のCOP21(国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)において、パリ協定(Paris Agreement)が採択されました。当初、発効は遅くなるであろうと予想されていましたが、アメリカと中国が締結したことにより発効要件を満たし、パリ協定が発効しました。そして、昨年11月15-18日にCOP22に合わせて、第1回パリ協定締約国会合(CMA1)が開催されました。わが国がパリ協定を締結したのは、CMA1開催の一週間前でした。

#### 2. パリ協定とは

国連気候変動枠組条約とは、大気 中の温室効果ガスの濃度を安定化さ せることを目的とした国際条約です。 この条約は、今後の温暖化防止の枠 組みを定めたもので、いわば、環境 方針のようなものです。具体的な目 標などは、この条約に加盟した国が 集まって、これから決めようという ことです。これが締約国会議(COP) です。そして、第3回会議で決定され た文書が京都議定書であり、第21回 会議で決まった文書がパリ協定です。 京都議定書では、中国やインドを含 む開発途上国には温室効果ガス削減 義務がなく、最大の排出国(現在は2 位)のアメリカが離脱したことから、 その実効性が問われることになりま した。そのため、今回のパリ協定では、 様々な工夫がされています。パリ協 定と京都議定書の特徴を簡単に比較

### 表 京都議定書とパリ協定の比較

具体的な目標を 定めた文書	京都議定書	パリ協定
決定された会合	COP3	COP21
温室効果ガスの 削減義務	先進国は6~8%の削減義務を負う	すべての国は自ら定めた目標の達 成に努める。
特徴	市場メカニズム(排出量取引など)を重視する。	PDCAを重視する。5年ごとのレビュー、進捗管理を行う。

すれば、表のようになります。京都 議定書では、クリーン開発メカニズム (CDM) などの市場原理に基づく インセンティブが重視されていまし た。しかし、今回のパリ協定では、 その仕組みは引き継がれていますが、 扱いは小さくなっています。

今回のパリ協定では、開発途上国においても、強制されてはいませんが、すべての国が削減目標を掲げることができます。このため、先進国の援助によるこれらの国での温室効果ガス削減の成果をどのように配分するかという問題を解決する必要があります。また、開発途上国に対する資金援助に関する事項も含まれていますが、具体化に向けた取り組みもこれからの課題です。

### 3. わが国の対応

COP19での決定により締約国は2020年以降の温室効果ガス削減目標案を提出することになっており、2015年12月現在すべての先進国を含む188の国と地域がこれを提出しています。わが国は「2030年度に2013年対比で26%削減する」と報告しています。

日本経済新聞社がまとめ、1月23日

付け朝刊で発表した第20回環境経営 度調査の結果でも、各社が積極的に 温室効果ガスの削減に努めている様 子がよくわかります。昨年5月に閣議 決定された地球温暖化対策の基本方 針(2030年までに26%削減)に対応 した産業部門での6.5%削減目標を大 幅に上回る14.4%の削減を達成して います。特に、業種別にみると、自 動車・自動車部品、機械などの健闘 が目立ちます。ここで、わが国にとっ て最大の懸念は遅れている電力部門 での進捗管理であろうと思われてい ます。

### 4. パリ協定発効と環境マネジメント

パリ協定では、各国の削減目標は自ら決めることになっており、最終的には地球全体での温度上昇を2℃以内(なるべく1.5°以内)に抑えることとしています。この方針を実現するために、それぞれの国で適切にPDCAを回して、対策に遅れが生じるようであれば、適切な見直しが迫られることになります。その意味でも、温暖化防止対策においても、ISO規格が要求しているようなマネジメントシステムが求められているともいえます。

# ●私の提言●

# 原理原則について

筑波大学 ビジネスサイエンス系 木野 泰伸



る技術者の方がよく使われている言葉で ある。通訳をされている方が教えてくれ た言葉で、考えてみれば、筆者も心の中 で似た言葉をよくつぶやいている。

品質改善活動の指導をしている人たちの悩みの一つに、活動がなかなか定着しない、ということがある。指導している内容は秘伝ではなく、学会や書籍を通じて一般に広く知られているも

のである。定着しない理由はいくつか 考えられる。トップマネジメントの意 識が希薄である場合や、形だけとりつ くろった場合などがその例である。

現場は、人、設備、作り出す製品などがそれぞれ異なっていて、同じであることはない。従って、ある工場で行っている改善活動をそのまま移転しても、なかなか上手くいかない。この形をはなく、単に表面上の形を指導するのではなく、その出場のやり方を知りたいと考え、まず形から入る。うまくいっと考え、まず形から入る。うまくいっと考え、関値することから始める。模倣はおっているの段階で終了してしまう

と、活動は発展しない。品質改善活動を組織に定着させていくためには、他の事例を参考にするだけでなく、なぜそのようになっているのか、その奥にある理由や構造を考え、自分たちの環境に合わせて再設計していく力が必要になる。そこでつい出てくる言葉が「原理原則に従って考える」である。

筆者にとって、この言葉は分かりや すいが、一方で、自分が授業の中で原 理原則とは何かを説明し、受講生に伝 えられているのかと考えた場合、自信 が持てない。また、最初に紹介した技 術者の方が言われている原理原則と、 私の考えている原理原則は同じものな のだろうか。改善活動における原理原 則とは、何を指していて、どのように 教えればよいのか、現在の筆者では明 確に答えることができない。幸い日本 品質管理学会には、多くの実績ある諸 先輩方がおられる。そこで、今一度、 原理原則について、どのような考えを 持っておられるかをお伺いし、将来、 品質管理を学ぶ人たちの参考にしてい きたいと考えている。

# 第391回 事業所見学会 ルポ

# 花王㈱ すみだ事業所

2017年1月18日午後、東京スカイツリーのお膝元の花王(株)すみだ事業所(東京都墨田区)で第391回事業所見学会が開催された。過去花王様では当学会としても複数回の見学会の機会を頂いている。それだけ精鋭な企業の事業所見学会であり、満席の中、開催された。

すみだ事業所内には東京工場があり、過去は洗剤などを生産していたそうだが、現在は化粧品を生産している。東京の下町と言え、これだけ地価の高い場所での生産場所から高付加価値製品を生産していた。

花王ミュージアム内には社の歴史に留まらず石鹸や 洗剤、化粧品などの歴史も背景と並行して商品開発の 経緯が確認できる。また、この中では、実際の顧客情 報を再発防止や次の製品開発に活かす花王独自のシス テム"エコーシステム"も確認ができ、どのようにオペ レーターが顧客と事象を共有し顧客満足を得ながら組織として新商品に活かされ、その活かした商品の前後の製品が展示されており、企業の開発の流れを実体験に近いかたちで経験できた。一度は体験してみる価値がある。

最後に品質保証センター長より、「花王ウェイと全社品質保証活動」と題してご講演頂いた。「創業の志」、「商品開発5原則」、「花王ウェイ」("使命" "ビジョン" "基本となる価値観" "行動原則")などのお話を頂戴した。この中で特に創業の志のひとつとして花王ウェイに取り込まれている "正道を歩む" という価値観には大変参考になるものであった。ここには創業者の「敬意、公正、誠実、勤勉、法と倫理の遵守、社会的責任の遂行」という、聞けば当たり前かもしれないが、創業から今に至っても延々と引き継がれた基本的価値観を繋ぎ留めてこの実現を全社活動として事業遂行している内容であった。お忙しい中、見学会を受入頂いた、品質保証センター、田方センター長様、島部長様、舛井副主席様には感謝致します。

# 第46年度 品質管理推進功労賞: 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします!

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第17回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

# 本賞の授賞資格(品質管理推進功労賞内規): 以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体(以下、組織という。) に所属し、 所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献を した、もしくは、していると認められる者。
- 2)組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3)組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

# 本年度選考方針:

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も 対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名 以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55~65歳位を目安と し、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける(理事、執行役員は対象とする)。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 46年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

#### 評価項目:

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。 【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を 通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動 を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

### 推薦必要書類:

推薦書 (様式219-1)、業績リスト (様式219-2)、上司等の推薦書 (様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。)

様式については、下記Web頁よりダウンロードして ください。

URL: http://www.jsqc.org/ja/kiroku\_houkoku/jushou.html 業績リスト (様式219-2) の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切:2017年6月30日金

メール送付先:2017kourou@jsqc.org

選 考:日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表:9月に開催される本学会理事会での承認後、本 人ならびに推薦者に通知

表 彰:2017年11月

本学会 年次大会 授賞式

連絡先:日本品質管理学会事務局

参考:http://www.jsqc.org/ja/kiroku\_houkoku/jushou/kouroushou.html

# 教員公募

# 東京理科大学 理工学部 経営工学科 教員公募

募集人員 嘱託助教 3名

所 属 東京理科大学理工学部経営工学科

着任時期 平成29年5月1日以降できるだけ早い時期

詳 細 http://www.tus.ac.jp/boshuu/kyoin/

応募締切 平成29年3月31日金必着

# 2016年12月の入会者紹介

2016年12月19日の理事会において、下記の通り正会員16名、職域会員1名、公共会員2口の入会が承認されました。

(正会員16名) ○井上 洋一(愛三西尾 法律事務所)○首藤 信一(電源開発) ○栗林 陽一(ヤマザキ)○大迫 一 浩(スタッフサービス)○早瀬 哲生(オ ムロンアミューズメント)○下村 健 治(神戸屋)○島田 ひろ子(日本品

質保証機構)○水谷 壮一郎(水谷産業) ○眞鍋 智也○山本 真幹(扶桑化学 工業) ○植田 真三久(大阪府済生会 中津病院) 〇大倉 健司(康和会 久 我山病院)○兵藤 孝次(日本たばこ 産業)○香坂 誠(アイスポ)○並木 康夫(クノール食品)(池田 貴文(東

(職域会員1名) ○小林 義憲(建材試 験センター)

(公共会員2口) ○全国大学生活協同組 合連合会○神奈川県立川崎図書館

> 正 会 員:1948名 準 会 員:61名 職域会員:42名

賛助会員:144社189口

公共会員:17口

### 事務局からのお知らせ

# 「QMS有効活用及び審査研究部会 WG2 研究報告書 改正ISO 9001の意図及び審査員の力量の研究」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希 望の方に実費で頒布いたします。

1. **申込先**:本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代:1冊(A4判105頁)会員1.435円、非会員2.130円、QMS部会 員は1冊目に限り926円。税・送料別。

3. 詳細:http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html#h290220

資料は入金を確認の上、送付いたします。

# 行事案内

#### ●第6回 科学技術教育フォーラム

テーマ:社会との共創による新教育課 程の実現

時:2017年3月25日生13:00~17:30 슾 場:電気通信大学西5号館209号室

定 員:120名

参加費:1,000円(当日払い)

プログラム: 基調講演

> 「社会に開かれた教育課程の実現」 長尾篤志氏

> > (文部科学省初等中等教育局)

第1部「海外での数理科学的問題解 決教育の現状」

西村圭一氏 (東京学芸大学)

第2部「社会との共創による問題解 決力育成の実践」

森嶋真一氏

(山梨県立富士北稜高等学校)

五十嵐康伸氏

(E2D3.org/インテリジェンス)

第3部パネルディスカッション

司会:椿 広計氏(JSQC会長)

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290325

# ●第111回QCサロン(関西)

テーマ:東南アジアにおけるローカル 人材育成について

ゲスト:杉谷浩成氏(住友電気工業) 日 時:2017年4月13日(木)19:00~20:30

会 場:新藤田ビル11階研修室 参加費:1,000円(含軽食・当日払い)

申込先: 関西支部事務局

細:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290413

# ●第102回クオリティトーク(本部)

テーマ:自動運転社会実現への道 ゲスト: 久村春芳氏 (日産自動車) 日 時:2017年4月17日(月)18:30~20:50 場:日科技連東高円寺ビル5F研修室 定 員:30名

参加費:会員3,500円 非会員4,500円 準会員・一般学生2,500円

(含軽食・当日払い)

申込先:本部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/

events/index.html#h290417

### ●第394回事業所見学会(本部)

テーマ:日産車体株式会社の品質への 取り組み

時:2017年4月20日休13:30~16:45 見学先:日産車体株式会社 湘南工場

定 員:30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費:会 員3,000円 非会員4,500円 準会員2,000円 一般学生2,500円

※当日払い

申込先:本部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290420

#### ●第395回事業所見学会(関西)

テーマ:日本の伝統的ものづくりと近 代化による高品質の実現

日 時:2017年5月12日金13:30~16:30

見学先:神戸酒心館

定 員:50名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先: 関西支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290512

### ●第113回研究発表会(本部)

日 時:2017年5月27日(土)28日(日)

会 場:日本科学技術連盟東高円寺ビル プログラム:(予定)

・5月27日(土)

10:00~11:00

チュートリアルセッションA 伊藤 誠氏 (筑波大学)

11:00~12:00

チュートリアルセッションB

米岡俊郎氏(トヨタ自動車九州)

研究発表会 13:00~17:55 懇 親 会 18:10~19:45

・5月28日(日)

10:00~16:00 研究発表会 申込締切: 2017年5月17日(水)

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290528

### ●第130回講演会(中部)

日 時:2017年6月2日金13:00~16:20 会 場:名古屋国際センター 別棟ホール テーマ: 高品質と開発期間半減は両立 できる

講演:長谷部光雄氏(のっぽ技研) 参加費:会 員3,780円 非会員4,860円 準会員2,700円一般学生3,240円

申込締切: 2017年4月28日(金)

申込先:中部支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290602

# ●第114回研究発表会(中部)発表募集

日 時:2017年8月30日(水) 会 場: 名古屋工業大学

申込締切:

発表申込締切:5月26日金 予稿原稿締切:7月21日金必着 参加申込締切:8月23日(水)

申込先:中部支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/ events/index.html#h290830

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ:www.jsqc.org/

本 部: FAX 03-5378-1507 E-mail: apply@jsqc.org

中部支部: FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp 関西支部: FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@isqc.org